

## 教職課程センターの活動紹介

教職課程センター  
事業主任 作 中 久 雄

### はじめに

2012年4月、教員免許状の取得から教員採用試験合格に至るまでの支援を目的とした「教職課程センター」が開設された。従来の教員免許取得のための指導助言に加え、教育委員会や小・中学校、高等学校等との連携、教職インターンシップ・学校支援ボランティア活動の推進、教員採用試験受験のための指導の充実を図ることが主なねらいである。

また、教職課程センターでは、在学生の指導に留まらず、現職の教員や講師等も含めた研修会、卒業した後に教職をめざそうとする卒業生に対する支援等も充実させていきたいと考えている。

教職をめざす在学生や卒業生、そして現職の教員・講師が積極的に「教職課程センター」を活用し、総合的な協力関係を構築していく中で、優れた教育者を育てていきたいと願っている。

### 1 教職課程センターの目的と主な事業

教職課程センターの目的は優れた教育者を育て送り出し、教育界に貢献することである。そのためには、教職課程センターとしての4つの柱「養成」「連携」「採用」「研修」を軸として、さまざまな行事の企画、運営、サポートを行い、教職をめざしている在学生や卒業生の育成を図っていかなければならないと考えている。

教職課程センターとしての主な事業は以下のとおりである。

- ・教育実習、教職インターンシップ、学校支援ボランティア、教職サークルの育成、小中高等学校・市教育委員会等との連携・協力の実施と指導に関すること
- ・教職課程の学習相談、教職進路相談に関すること
- ・教育職員採用の情報収集と提供、試験対策の指導、支援に関すること
- ・小学校免許取得のための通信教育連携に関すること
- ・卒業生現職教員との研修、交流等の連携協力に関すること
- ・教職員教育に関する事項の調査、研究、開発に関すること
- ・教育職員養成、講習等に関する団体・組織との連携に関すること

従来の免許取得のための教職課程を中心に、さらにその成果を採用につなげていくこと、また現職教員の研修の機会を提供すること、地域の学校や地域社会の各組織等との連携・協力を進め、教員養成を中心にして社会的役割を推進することをめざしている。

### 2 教職サークルの充実

昨年度までは、4年生の教員採用試験（7月・8月）が終了した後、9月～10月ごろになって3年生が集まり教職サークルを立ち上

げていたのだが、それでは十分な活動はできないのではないかと考える。教員採用試験受験のためのサークル活動としてのみ考えるのならばそれでもよいのかも知れないが、教職課程履修者全体の問題として考えたとき、4年生になるまでに「教職をめざそうとする意欲」が減退してしまうところに問題点がある。したがって、1・2年生時代の、まだ十分意欲があるときから積極的にサークル活動を行い、教職に就きたいという気持ちをさらに高めていくことが重要なポイントではないかと考え、3年生のみならず、2年生教職サークル、1年生教職サークルをも立ち上げるように働きかけてきた。その結果、3年生教職サークル(21名)、2年生教職サークルA班(22名)、B班(9名)1年生教職サークル(32名)を立ち上げることができた。

#### ・もう一つの問題点

教職サークルはかなり充実してきて、サークルに入っている学生はよいのだが、そうでない学生をどうするかが今後の大きな問題である。4年生の教育実習説明会で、現在、教職課程センターで「面接試験の練習」をしているので、受験する学生に練習に来るように促したが、教職サークル以外の学生はほとんど来ない。「記念受験」という言葉があるようで、他企業への就職活動をしているような学生は「記念」に受験する程度ということらしいが、こうした学生の意識をどのようにして高めていくかが今後の課題であると考え。

#### ・先輩教師に学ぶ会

「先輩教師に学ぶ会」を4回開催したが、いずれも参加した学生が感動するほど、意義

深いものになったと感じている。学生が勉強になるのはもちろんだが、講師として参加してくれた現役の若い教師たちも「学生から元気をもらいました」といった感想を述べてくれ、「教師としての自分を見つめる」よい機会にもなっているものと思われる。

1月12日(土)に第5回を企画しているのだが、この会を教職サークルの活動のみに留めることなく、教職課程を履修している一般の学生にも参加を促して行きたいと考えている。

また、この「先輩教師に学ぶ会」を発展させて、来年の秋には現役教師・講師・学生の教科別研究会につなげていきたいと考えている。

#### <「先輩教師に学ぶ会」を終えた学生の感想>

##### 3年女子学生

想像していたよりずっと濃密で、充実した時間になりました。現場の様子など、楽しみながら聞けてあっという間に時間が過ぎていきました。教員採用試験について抱えていたもやもやしたものがすっきり解消することができました。それを同じ「教師になる」という夢を持つサークルの仲間と共有できたことが充実した時間となった一つの理由だと思います。試験の対策から雰囲気、また、現場の生の声が聞けて非常に貴重な経験となりました。



た。自分がこれからやるべきことを見つめなおすことができたと思います。また、学級経営など、教師になったら自分もこれをやってみたいという考えが持てました。教師になりたいという夢が一段と強いものになりました。

### 1 年男子学生

私は教職の授業を受けている中で、その先生に早めに教職のサークルを作った方がよいといわれました。そんな中、友達が教職のグループに入らないかと誘いかけてくれました。自分のスキルアップになるのではと思い、その教職サークルに入りました。しかし、まだ発足したばかりでどんな活動をしていくのか分かりませんでした。今日のお話の中で、3年生の先輩の方々が教職サークルで今どんなことをしているか知ることができました。また、杉山先生は早くサークルを作ることも大切だけど、まだ1年生だから焦らずに活動し、大学生活を楽しむことも大切だとアドバイスをしてくれて自分たちのグループがこれからどのように活動していくのか分かったような気がしました。とても有意義で内容の濃いお話を聞くことができよかったです。

## 3 教職インターンシップ

### (1) 目的・学生にとっての意義

「教職インターンシップ」とは、教職を目指している学生が、小中学校の協力のもとに一定の期間、特定の曜日・時間に学校に訪問し、教員とのチームティーチングによる学習指導の補助、放課後の補充学習、クラブ活動、課外活動等を学校応援ボランティアとし

て行い、教職を目指している学生に必要な職業観、社会観さらには人生観を養うことを目的としている。

また、学生にとっては、主に次のような意義がある。

- ① 生きた教育現場を体験することで、自己の教師としての適性を把握する機会となる。
- ② 学校現場でのノウハウや技術に触れながら様々な体験を積むことによって、より適切な能力を高め、培うことができる。

以上のような目的・学生にとっての意義を踏まえながら、教職課程センターとしてはより多くの学生に「教職インターンシップ」を体験させ、教職に向かおうとする学生の意欲を喚起していきたいと考えている。



### (2) 対象学生

- ・教職課程履修者（2、3、4年生）

### (3) 受け入れ校（人数）

- ・小学校……………9校（38名受け入れ）
- ・中学校……………1校（2名受け入れ）

### (4) 受け入れ期間

- ・各受け入れ校の実情による……（おおむね来年3月まで、4月に更新予定）

(5) 学校現場での業務

- ・主に教員とのチームティーチングによる学習指導の補助、放課後の補充学習、クラブ活動、課外活動、「総合的な学習」の時間、学校行事の手伝い、教材作成の補助など（基本的には受け入れ校の策定によるため、各校の実情により異なる。）

(6) 費用等

- ・インターンシップ実施にかかる交通費等の費用は本人の負担とする。

(7) 「覚書」の確認・交換

- ・受入決定後、学校と大学間で調整の上、研修実施までに「覚書」を確認、交換する。

(8) 研修規律、守秘義務等

- ・研修態度及び守秘に関する「誓約書」を提出させ、規律の遵守及びインターンシップ期間中に知り得た学校及び在校生等の機密事項の守秘義務などについて厳守させる。

(9) 事前と事後の指導

- ・事前指導および事後の報告会の実施によって、マナーや心構え等に関しての講習を受けさせるとともに、その成果を十分に活かすための指導を行う。

(10) 事故等の補償

- ・学生は「インターンシップ・教職資格活

動等賠償責任保険」への加入手続きを行う。

<「教職インターンシップ」学生の感想>

**3年女子学生**

インターンシップに実際参加して、授業以外にも教師の仕事は多くあり、難しさを感じました。子ども達との接し方や教師の役割、授業の仕方をまだ短い期間ではありますが、理解することができました。授業を行う上で、板書や話し方はどのように行っているのかということを実際見ることができ、今後に生かしていきたいと思いました。子ども達の反応を見て、皆で協力をしながら授業を展開していくことの大切さを学び、集団における団結力の重要性を理解することができました。私は子ども達と気軽に話せて、相談に乗ったり話を聞いてあげたりするなど、親しみを持った態度で接することを意識してインターンシップに取り組みました。しかし、子ども達はとても繊細なので、どのアドバイスが適切なのか、言葉を選んで発言することが必要であると感じました。教師としての在り方を改めて考え、自分の中の課題を認識し、その解決にむけて、今後もインターンシップを通して学び続けるという姿勢をより強く持つことができました。

**2年男子学生**

実際に小学校という現場に入るということで、現場の雰囲気に触れるという貴重な体験ができています。最初は緊張のあまり、ただその場に居ることしか出来ませんでした。で



も、今後の教育実習を考えると、インターンシップに参加でき大変勉強になります。また、自分が「先生」と呼ばれることに慣れず、子どもたちに対する立場を明確に表すことが難しいと感じています。

子どもが自分に興味を持って近づいてきてくれると、とても嬉しいです。でも、嬉しいと感ずる一方、「先生」としてはどうすべきなのか、これではただの遊び相手になっているだけではないかと自問自答することもあります。こうした経験により「先生」という立場はどうあるべきなのかを明確にしながら、「先生」としての姿勢を身に付けていきたいと思えます。

#### 4 学校支援ボランティア活動の推進



##### ○学生ボランティア（学習指導・水泳）

市内A小学校

＜学習指導＞……………30名参加

・7月23日～8月3日

＜水泳指導＞……………8名参加

・7月17日～8月7日

##### ○学びとふれあい子ども教室

（サマースクール）

・7月23日～8月29日の指定された日

時、各学校にて実施

##### ○学習支援ボランティア

・7月31日、8月21日・28日、及び9月以降の隔週土曜日13：30～17：00

##### ○豊橋市造形パラダイス支援ボランティア

……約60名参加

・10月18日～10月23日、作品の搬入・搬出、飾りつけ等の協力

##### ○その他

このような学校支援ボランティア活動に積極的に応募し、活動している学生も大変増えてきている。教職に向かおうとする意識を高めるためには必要な活動であるので、今後も積極的に参加を促したい。

#### 5 教員採用試験受験対策への支援

##### ・模擬授業

教職サークルの学生を中心に模擬授業を行ってきた。授業後、話のし方、板書のし方等を指導する。教職サークルの学生は大変意欲的で、「次回の模擬授業は私がやります」と積極的に手を挙げる学生が多い。

模擬授業の試験がある県とない県があるが、試験に関係なく、授業力を付けていくためには欠かせないものと考えられるので、今後も積極的に推進していきたい。

##### ・面接練習会

教職サークルの学生（4年生）を中心に集団面接、個人面接の練習を重ねてきた。いつも同じ面接官だと緊張感が欠けるため、時には外部から面接官を招聘しての練習会も設定した。豊橋市内の元校長2名の方に試験官を依頼し、個人面接を想定しての練習（一人

20分間)を行った。面接終了後、全体に注意点を指導していただく。

#### ・集団討論練習会

集団討論の練習も繰り返し行ってきた。練習量の多い学生ほど自信を持って堂々とした態度で対応できているので、教員採用試験を受けるすべての学生にこうした練習のチャンスを是非とも活かしてほしいものだと思っている。教職課程センターに訪ねてくれれば、いつでも練習できる準備は整っているのだから、来年度に向けては「教職課程センター」の存在と「いつでも面接等の練習ができるのだ」ということを広く宣伝していかなければならないと考えている。

#### ・模擬テスト

教職サークル3年生の学生を対象に「愛知県の一般教養・教職教養の過去問模擬試験」を実施した。学生は試験勉強のとりかかりが遅く、なかなか本気にならないので、勉強のきっかけをつくる意味で愛知県の過去5年分の模擬試験を実施してきた。

## 6 現状と問題点、課題解決の方策

本学では、毎年100名以上の学生が教員免許状を取得しているのだが、実際に教員採用試験に合格し、教職に就く人数は極めて少ない。なぜ、そうなるのかを考えてみると、教職課程センターに来る教職サークル以外の4年生・3年生の教員採用試験に対する意識が非常に低いことが原因ではないかと思われる。試験に対する傾向と対策どころか、教職そのものについてのきちんとしたイメージすらほとんど持っていないように感じる。それ

は4年生になるまでに教職に就こうとする意欲が萎んでしまうことに原因があると思われる。前述の「記念受験」という言葉があるように他企業への就職活動をしているような学生は「教職課程を履修した記念」に受験するという程度らしいということだが、このような現状では教員採用試験合格者を増加させることは極めて難しいものと思われる。

したがって、1・2年生の間に教育界に關してのきちんとした情報を捉えさせ、その上で教員採用試験に対してどう対処していかなければならないのかを考えさせたい。そして、教職に就きたいという意欲をまだ十分に持っている1・2年生時代にきちんと指導し、本気で教職への道を求めようとする意識を高めていく必要があると思われる。

また、そのための有効な手段として、教職サークルの充実、教職インターンシップ・学校支援ボランティア活動の推進、先輩教師に学会等の研修会を積極的に行い、充実させていくことが大切であると考えている。

## おわりに

教職課程センターが発足して、まだ半年であるが、これからの地道な努力が実を結ぶ日が必ず来ると信じている。教職をめざす在学生や卒業生、そして現職の教員・講師が積極的に「教職課程センター」を活用してくれるようになるまでには、まだかなりの時間が必要であるとは思われるが、そうした利用者の総合的な協力関係が構築されれば、必ずや優れた教育者を育てていくことができるものと信じている。